

★館長のご挨拶★

図書館館長 岩間 薫

みなさん、本を読むことは好きですか？ここに残っている本はありますか？
私が本を読んで初めて泣いたのは、確か小学生のころ、それは『幸福(しあわせ)の王子』(オスカー・ワイルド)でした。その日の学校での出来事を母に話しながら、本の内容を泣きながら説明したことを今でも覚えています。
このように感動したことは、いつまでもここに残り、いつでもその時に私たちに戻してくれます。小学校の頃の母との思い出のワンシーンです。
もうすでにここに残っている本に出合った人、まだ出会っていない人は、できるだけ早くそのような本に出合えることを祈っています。
学生時代に読んだ本は、これから社会人となったときの知識の栄養となり、みなさんを助けてくれます。時間のある時に図書館に足を運び、こころの栄養となる本を読み、大いに感性を磨いてください。

【担当科目】「次世代育成ケア論」

「母性看護方法論」など

【専門分野】母性看護学、助産学

県内唯一の「思春期ピアカウンセラー」養成とピアカウンセリングの実践を行っています。

★おすすめ図書★

恩田 陸著『蜜蜂と遠雷』 幻冬舎 913.6/O63

(第156回 直木賞受賞、本屋大賞受賞作)
ピアノコンクールが舞台の青春群像劇。ピアノ演奏やコンテストの音楽に対する熱い思い、描写から光や音楽が見え、聴こえてきます。“世界は音楽に満ちてる”、実感できます。今、この時だからこそ、静かなところで、ゆっくりと、読んでみてください。いつからでも、好きなこと、今までやり残してきたこと。いつからでも始めてもいいんだ。夢はかなえられるということが、ここに染みてきます。

✕感染を防ぐために✕

今年2月より、日本にも広がった新型コロナウイルス感染症は、現在も感染者が増え続け世界中で猛威を振っています。

感染を防ぐために、マスクの着用、手洗い、手指消毒、人との接触を避け、距離をとるなど、これまでとガラリと変わった生活様式を送ることが求められています。

たくさんの医療従事者の方々が、日々全力で治療にあたっています。これからその一員となる学生の皆さんには、本学で学んだことを現場でも生かしてほしいと思います。

感染症をテーマに取り上げた図書を紹介します。

◇アルペール・カミュ著『ペスト』 新潮社 953.7/C14

名作『ペスト』はアルペール・カミュの代表作。新型コロナウイルス感染症の蔓延により、再び注目を集めています。

ペスト流行により封鎖された市で、ペストというあらがえない不条理に対し、それぞれが倫理観や個々の尊厳を保っていられるのか。

医師リウーは市民を淡々と見つめながら自問し、治療にあたります。

◇朱戸 アオ著『リウーを待ちながら』

講談社 726.1/A33

アルペール・カミュ著『ペスト』をもとに据えたストーリー。

地方都市横走市で突然、吐血して自衛隊員が死亡した。そこで働く内科医玉木鈴穂は、相次ぎ死亡者が出るなか同僚の死を乗り越え、次々と発生する患者の治療にあたる。医師、看護師たちの奔走、心の葛藤をリアルに描き、支持を集めている作品。

◇本田 順一・操 華子編著『基礎からわかる感染症』

ナツメ社 493.8/H84

複雑な医療環境において、医師、看護師、薬剤師、医療施設のスタッフ全員が一丸となりチームで感染制御・予防していくために、感染症の基礎を、成功事例を交えつつ解説しています。

Part3「消毒薬の基礎」には、滅菌(完全に菌を減する)に効果のある薬剤が載っています。報道に左右されず、専門家の知識を取り入れながら予防に努めましょう。

◇岡田 晴恵監修 イラスト:いとう みつる

『感染症キャラクター図鑑』 日本図書センター 493.8/O38

ウイルス、病原菌や寄生虫など感染症の原因となる微生物をキャラクター化して詳しく説明。

感染症のうつり方や予防、治療法をイラスト満載でわかりやすく解説しているのでおすすめです。

◇濱田 篤郎著『疫病は警告する』 洋泉社 493.8/H22

医師である著者が、感染症SARSと闘った記録。「感染症が過去のもの」と錯覚していた我々にとっての、久しく忘れていた旋律であった」の一言が、重く心にのしかかります。

何千年も前から繰り返し襲ってきた疫病は、人間社会への警告であるとも伝えています。

文明と歴史を教訓に、油断せず、忘れずにいることを強く訴えています。

このほかにも関連する図書や視聴覚資料があります。図書館で探してみてくださいね♪



病児保育

保育士は、子どもを持つ共働き世帯に対する支援や、深刻化を増す待機児童の解消に関して非常に重要な役割を担っています。国は子育て安心プランとして、女性の就職率を8割まで引き上げることが目標にしているため、保育士のニーズはより高まるでしょう。

小さな子どもには病気がつきものですが、病気の場合は保育所に預けることができません。

どうしても仕事を休めない時があります。そんな時、保護者をサポートし、病気で不安な子どもの気持ちに寄り添いながらお世話するのが**病児保育士**です。

病児保育士を題材とした図書、保育士の関連図書を紹介します。

☆椎名 チカ著『37.5℃の涙』小学館 726.1/Sh57

『37.5℃』

それは、こどもが保育園に行ける、体温のボーダーライン。保育園には預けられない。病気のこどもを置いて仕事には行けない。でも働かなくては生きていけない――。

身動きの取れない親たちに手を差し伸べる存在、「病児保育士」。

漫画を通して、病児保育の理解が深まります。



☆山崎 喜代子・古野 愛子 編著

『保育実習ガイドブック：

理論と実践をつなぐ12の扉』ミネルヴァ書房 376.1/Y48

本学教授、中里操先生 監修

現場と学生に役立つ新しい保育士養成テキスト。

実習前、実習中、実習後の進め方が具体的に理解できます。

☆総括編集委員会編『最新 保育士養成講座』
全国社会福祉協議会 376.14/Sa22

保育士試験受験者、保育士養成校の学生のためのテキストです。2019年4月から保育士養成校で適用される新しい保育士養成カリキュラムに準拠。(1巻～10巻)

このほかにも保育士資格取得のためのテキストや問題集を揃えています。ぜひ活用してくださいね！



著者から学ぶ名言集

「こころ」との向き合い方 編一

これから社会に出る皆さんにとって「こころ」と向き合うことは重要なことです。利用者の方や患者さん、また窓口へ来たお客様に真摯に向き合うために、自分の「こころ」と向き合いましょう。今回は「こころ」をテーマにした作品からひとことをご紹介します。



”考えることは、合理的に考えることだ。…(中略)

物を考えるとは、物を掴んで離さぬという事だ。…(中略)

悩むとは、自分を審くのは自分だという厄介な意識そのものだからだ。”

小林 秀雄著『考えるヒント』文藝春秋

～「良心」より～ 914.6/Ko12

考えることがどういうことなのか、考えることとは何か。少し難しいけれども、じっくり考えるのも、面白いです。感情的になった時や悩みが生じた時に、「考えること」の根本を見つめて、客観的に物事を捉えてみましょう。

”言葉はもともと深読みすればきりが無い。

好意は好意として受け止めよう、深読みはいつでもできる。”



和田 秀樹著『感情的にならない話し方』新講社

～第7章「ありがとう」は相手を信じる話し方より～ 080/W12/224

褒められたとき、相手の言葉の裏に何があるのか、と深読みしすぎると、何も信じられなくなってしまいます。時には鈍感でもいいので、素直に、前向きに言葉を受け止めましょう。

”子(し)曰(いわ)く、学んで思わざれば則(すなわ)ち罔(くら)し。思うて学ばざれば則ち殆(あや)うし。” 孔子「論語」より

山口 諒司監修『図解 眠れなくなるほど面白い論語』日本文芸社
～第3章 学ぶという事より～ 123.83/Y24

教わって学び知識を得るばかりではなく、自分なりに深く考えることも大切です。学ぶことと考えることの、どちらかが欠けてしまっただけで偏った考え方へと進んでしまう。社会に出てから先輩の教えを受け、自分なりに重要性を意識しながら物事に取り組みましょう。

こちらを読み終えたら、原著にも挑戦してみませんか？



秋田看護福祉大学附属図書館

〒017-0046 大館市清水2-3-4

TEL:0186-45-1785

<http://www.well.ac.jp/library>

◆開館時間 学期中 月曜～金曜 午前8時30分～午後6時30分
土曜 午前9時00分～午後1時00分
長期休業中 月曜～金曜 午前8時30分～午後5時10分

(このほか、試験期間中の延長開館や学内行事に関わる特別開館時間等があります。)

※新型コロナウイルス感染症対策のため、開館時間を変更しています。詳細はHPをご覧ください。

◆休館日 日曜・祝日、長期休業中の土曜、その他館長の定める日

※「図書館だより」で紹介している本の出版社・ISBN等、詳細をお知りになりたい方は図書館までお問い合わせください。